

## プランゲ文庫史料による占領下日本における 医療・看護の社会的活動の分析(1)

大石 杉乃

東京慈恵会医科大学医学部看護学科

### 【研究の背景】

占領下の日本においては、医療・看護の社会的活動も General Headquarters Supreme Commander for the Allied Powers (GHQ) の管理を受けていた。GHQ 監督下にあった組織の社会的活動に対する GHQ による管理の実態は、PH & W Records の分析により評価することが可能である。しかし、その他の組織の活動およびその活動に対する管理の実態については不明の点が多い。これらの組織の活動および GHQ による管理の実態を評価するためには、これらの組織が発行したパンフレット、新聞、ポスターなどの内容と GHQ の Civil Censorship Detachment (CCD) による検閲結果から得られる情報が役立つと考えられる。当時のパンフレットおよびこれらに対する検閲結果はメリーランド大学プランゲ文庫に Pamphlet List として保管されている。現時点で発見されているのは Pamphlet List のみでパンフレット自体は未確認である。

本研究では、Pamphlet List の内容を分類し、医療と看護の活動に対する GHQ の対応について分析する。

### 【結果と考察】

#### 1. Pamphlet List

プランゲ文庫には Pamphlet List とそのコピーが所蔵されている。確認された期間は 1948 年 9 月 14 日から 1949 年 10 月 25 日までで、Pamphlet List に掲載されたパンフレットは 7,220 部である。Pamphlet List には、日付（どの時点かは確認できなかった）、パンフレットの分類を示す記号、通し番号、パンフレット名、出版社名が記載されている。

#### 2. Pamphlet List に占める医療・看護のリスト

全 7,220 部を記載された記号に基づき分類したところ、上位 3 位は、SL (教科書など) 1,009 部 (13.95%)、Lit (文学) 780 部 (10.80%)、E あるいは Ed (教育) 701 部 (9.71%) であった。医学あるいは医療に関する分類は、MW (1949 年 3 月 11 日以前)、Med (1949 年 3 月 22 日以降) と表記され、100 部 (1.39%) が該当した。これらを分類すると、医学知識 20 部、疾病・治療 18 部、結核 11 部、性教育 8 部、漢方・鍼灸 7 部が上位を占めていた。看護は 1 部のみであり、パンフレット名は“KANGOGAKU KOZA”であった。1948 年には、『看護学講座』が学術書院からシリーズで発行されており、このうちの 1 冊がパンフレット扱いになったものと考えられる。

#### 3. 発行された看護のパンフレットから Pamphlet List を考察

今回発見された Pamphlet List には、1949 年に発行された『母親教室：助産指導のしおり』(E. マチソン述、厚生省母子衛生協会編訳)、看護婦の再教育(リフレッシャーコース)に使用されたパンフレットなどは含まれていなかった。検閲されたパンフレットにおける医学と看護の比率が 99:1 と明らかな偏りがあった理由としては、医師の組織には戦前から活動しているものも多く、当時からかなり自立して活動していたのに対し、看護の組織は実質的に戦後 GHQ の指導により誕生し、その活動も GHQ の指導下に行われていたため、パンフレットは GHQ の指導の下に発行されていた可能性が考えられた。

### 【まとめ】

プランゲ文庫所蔵の Pamphlet List には、1948 年 9 月 14 日から 1949 年 10 月 25 日までの間に総数 7,220 部のパンフレットが掲載されていた。その中で医療に関するものが 99 部、看護に関するものは 1 部と大きく異なっていた。この差は GHQ に対する医学と看護の関係の差を反映している可能性がある。